



初倉南小学校で実施された総合防災訓練 ①可搬ポンプ初期消火訓練 ②救出救助訓練 ③消火器初期消火訓練 ④搬送訓練

強化

# 危険を知って対策強化

さらなる地域防災力アップのため、防災訓練などの実践的な対策に加えて、災害による被害や影響を限り、被害を最小限に抑える対策を地域全体に浸透させましょう。

## 自主防災会の防災計画

6月に自主防災会アンケートを実施し、左の表のような回答が得られました。これを見てわかるとおり、ほとんどの町内が、日常の活動と災害時の活動に関係なく、「防災訓練（101町内）」などの実践的な防災対策を進め



炊き出し訓練（初倉南小学校）

自主防災会の防災計画策定状況（104町内のアンケート調査回答）

防災計画の分野	防災計画の項目	策定数
組織に関すること	組織編成および任務分担	86
	防災知識の普及・啓発	54
	災害危険度の把握	36
日常の活動に関すること	防災訓練	101
	防災資機材などの備蓄および管理	99
	情報の収集・伝達	68
災害時の活動に関すること	出火防止・初期消火	77
	救出・救護	69
	避難	84
	給食・給水	69

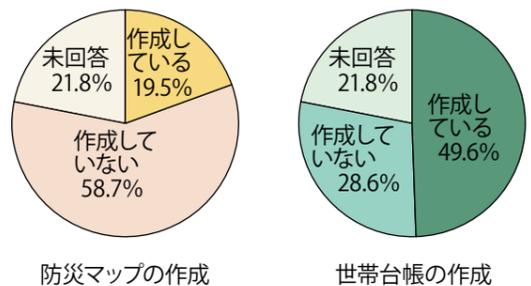
ています。一方で、「災害危険度の把握（36町内）」「防災知識の普及・啓発（54町内）」など、危険認知や知識の習得といった頭で考える防災対策が、進んでいないようです。防災訓練などの実践的な技術の習得や、備蓄食料や資機材の整備などの「事後対応型」の訓練も重要ですが、地域の危険性の事前把握や住宅の耐震化の啓発といった「事前対応型」の活動も減災への一歩となります。

## 世帯台帳と防災マップ

下の円グラフを見ると、現在、世帯台帳を作成している町内は、ほぼ半分以上です。個人情報保護の流れで、作成を断念した町内が多いのかもしれませんが、なかなか強制はできませんが、赤ちゃんやお年寄りの存在や持っている資格などの情報を町内が把握していると、災害時にはとても有効です。

防災マップを作成している町内は、市全体のおよそ5分の1でした。先に、道後島自主防災会の取り組みで紹介したとおり、事前に危険な避難ルートを把握しておけば、災害時に役立ちます。また、町内のみならず歩き回ると、お互いを知る機会にもなって、地域の結

自主防災会の取り組み状況



びつきも強くなります。まだ作成していない自主防災会は、ぜひ検討してください。

## 家庭と地域のつながり

地域防災力の強化は、家庭と地域のつながりによって成り立ちます。助け合いの気持ちが強ければ、いざというときに、町内における日頃の防災活動の力が発揮されます。また各家庭が、自主防災活動に積極的に参加し、地域と関わりを持つことが、より地域の絆を深めるでしょう。

## 強い絆で災害に打ち勝つ

東日本大震災では、多くの人が住む家を失い、長期の避難所生活を余儀なくされました。過去の震災に比べてスムーズに避難所を開設できたのは、避難所運営の必要性が住民の意識に浸透していたからです。それでも、想定を超えていたためか、女性や障害者などのプライバシーの保護に苦労した避難所もありました。教訓を生かすのは、それだけ難しいことでした。

島田市も、自然の恩恵を受けて繁栄してきた歴史と、自然災害に悩まされてきた歴史を持ちます。災害によって学んだ教訓は、風化させぬよう各地で語り継がれています。

災害を肌で感じた人、地域のために尽くす人、そして、新しいノウハウを広めようとする人。その誰もが、「絆が大切」と言います。災害に打ち勝つ「まち」とは、強い絆で結ばれた地域のことかもしれません。

9月1日の総合防災訓練では、子どもから大人まで多くの人が参加し、真剣な表情で取り組んでいました。一緒に汗をかいたり、教え合ったりと、町内の人と人の結びつきが強くなったことでしょう。この絆を絶やさぬためにも、一日だけの訓練で終わらせず、年間を通して地域の防災活動に積極的に参加してください。

いつ起きてもおかしくない自然災害。災害に強いまちを作るためには、あなたの協力が必要です。